

第四十四回帝國議會
衆議院

裁判所構成法中改正法律案外一件

（裁判所構成法中改正法律案外一件）
（案定年ニ依ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル法律案）

委員會會議錄（筆記）第一回

委員會成立

本委員ハ大正十年三月二十二日議長ノ指名ヲ以テ左ノ通り選定セラレタリ

- 戸水 寛人君 宮古啓三郎君 高橋 辰二君
 - 澤 來太郎君 塚原 嘉藤君 鳩山 一郎君
 - 北井波治目君 岩崎幸治郎君 原 夫次郎君
 - 水野吉太郎君 麓 純義君 本田 恆之君
 - 横山金太郎君 野田文一郎君 津原 武君
 - 藤井 啓一君 高柳覺太郎君 南 鼎三君
- 同月二十三日午前十一時十分委員長理事互選ノ爲各委員參集ス其氏名左ノ如シ

- 戸水 寛人君 宮古啓三郎君 塚原 嘉藤君
 - 麓 純義君 本田 恆之君 横山金太郎君
 - 原 夫次郎君 岩崎幸治郎君 野田文一郎君
 - 津原 武君 藤井 啓一君 高柳覺太郎君
 - 南 鼎三君 高橋 辰二君
- 年長者戸水寛人君投票管理者トナル
投票管理者（戸水寛人君）ハ委員長及理事ノ互選ヲ行フベキ旨ヲ宣告ス

○塚原嘉藤君ハ投票ヲ用キズ戸水寛人君ヲ委員長ニ、鳩山一郎君横山金太郎君及高柳覺太郎君ヲ理事ニ推薦スベシトノ意見ヲ提出ス

○投票管理者（戸水寛人君）ハ塚原君ノ意見ニ異議ナキヲ認メ自己ハ委員長ニ、鳩山一郎君横山金太郎君及高柳覺太郎君ハ理事ニ當選シタル旨ヲ宣告ス

○委員長（戸水寛人君）ハ引續キ會議ヲ開クヘキ旨ヲ宣告ス

會議

于時午前十一時二十分
出席國務大臣左ノ如シ

- 司法大臣 大木 遠吉君
- 司法次官 鈴木 喜三郎君
- 司法省民事局長 山内 隆三郎君
- 司法省參事官 池田 寅二郎君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

司法書記官 近藤 三郎君
司法事務官 山岡 萬之助君

裁判所構成法中改正法律案

定年ニ因ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル法律案

○委員長（戸水寛人君） 委員會ヲ開キマス

○横山金太郎君 昨日一應議場デ承リマシタノデハアリマスルガ、尙ホ御提案ノ理由ヲ要領ヲ摘ンデ政府委員ヨリ御述ベヲ願ヒタイ、ソレカラ質問ヲ致シタイト思ヒマス

○鈴木政府委員 御審議ヲ願ヒマスル、此二案ノ提案ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマスト云フト、先ツ第一ニ判檢事ニ在職定年制ヲ置キマシテ、後進ノ爲メニ進路ヲ開イテ新進ノ者ヲシテ其位地ヲ進メシメ、以テ司法事務ノ改善ヲ圖ルト云フコトノ目的ノ爲メニ、判檢事ニ在職定年制ヲ置キマシタノガ第一點デアリマス、第二點ニハ檢事總長ノ位地ヲ進メマシテ、親任ニスルト云フ事柄ニ付テハ、檢事總長ノ職務ノ重大ナルニ鑑ミ、且ツ他ノ官職ニ在ル者ト其權衡ヲ保ツ爲メニ、斯ノ如ク致シマシタ次第デアリマス、詳シク申上ゲマスレバ、元ト行政裁判所長官、會計検査院長ト云フモノハ、檢事總長ト其位列ヲ同ジウシテ居ツタノデゴザイマス、所ガ此二者ハ今日ニ於テハ既ニ早クモ親任ニ昇任シテ居ル次第デアリマス、依ッテ今回檢事總長ヲ親任タラシムルト云フ改正案ヲ提出致シタ次第ゴザイマス、第三ニハ外國語ヲ用キマスル裁判所檢事局ニ於テハ、從來通譯官ト云フモノガゴザイマセヌデ、通譯事務ヲ取扱ハシムル爲メニハ、書記ヲ以テ之ニ充テ、居ッタノデゴザイマス、斯クテハ堪能ナル通譯官ヲ得ルコトガ出來マセヌカラ、茲ニ通譯官ヲ設ケマシテ、高等官トナシ、以テ外國語ニ堪能ナル者ヲ採用シテ以テ通譯事務ニ當ラシムル、斯ウ云フ事柄ガ第三點デアリマス、第四點ト致シマシテハ、司法省ノ各局長若クハ司法省參事官ノ在職年數ヲ判檢事ノ在職年數ニ通算スル、斯ウ云フ規定

デゴザイマシテ、是ハ今日ノ狀態ニ於テ、新進氣鋭ノ者ヲ司法省ノ高等官ニ採用シヤウト致シマシテモ、構成法ノ方ニ於テ、大審院ノ判事トナルニハ十年ヲ要ス、控訴院ノ判事トナルニハ五年ヲ要スト云フ規定ガアルガ爲メニ、五年十年ヲ經過シタル判檢事デアルナラバ、本省ノ方ニ入ッテ來マスケレドモ、サウデナイ者デアルト云フト後ニ出テ、裁判所ニ入ル時分ニ同一列ニアッタ者ハ疾ウニ大審院判事ニナッテ居ル、控訴院ノ判事ニナッテ居ルニモ拘ラス、自分ハ司法省ヘ入ッタガ爲メニ、年級ノ少ナイ所カラシテ、裁判所ヘ入ルコトヲ欲セヌ、斯ウ云フヤウナ實際ノ現象ガゴザイマス、斯クテハ司法行政事務ヲ執ラス、或ハ裁判事務ヲ執ラシテ、相互此裁判事務ノ上ニ於テ、改良ヲ圖ルト云フ目的ニモ副ハヌコトニナリマスカラシテ、矢張苦シイ四五年ノ經驗ヲ經タ者ハ、一應司法省ノ高等官ニナラシメル必要上、ドウシテモ年數ノ通算ヲ必要トスル所カラシテ、斯ヤウナ改正案ヲ提出シタ次第デアリマス、斯ノ如ク判檢事ニ向ッテ定年制ヲ設ケマシタ以上ハ、從來ノ例ニ倣ヒマシテ優遇ヲシテヤル、定年ニ達シテ退職スル人ヲ優遇スルト云フ爲メニ、一般官吏ノ得ル所ノ恩給ニ百分ノ五十ヲ加ヘタルモノヲ増額シテ、恩給ヲ給與スル、斯ウ云フノガ即チ恩給法ノ案デアアルノデアリマス、大體本案提出ノ理由ハ以上申上ゲル次第デアリマス

○横山金太郎君 先ヅ伺ヒマス、ハ、憲法ノ五十八條ノ二項ハ、昨日モ御説明ガアツタヤウデアリマスガ、裁判官ノ官ノミヲ保障スルモノデアッテ、職ハ保障ヲ致シテ居ラナイト云フコトニ考ヘテ宜シウゴザイマスカ

○鈴木政府委員 憲法五十八條ノ二項ニ於テ、其職ヲ免セラレタルコトナシト申シマスノハ、官ヲ免セラレタルコトナシト解釋シテ居ルノデゴザイマス、官ヲ失ヒマスレバ、從ツテ其職ノ無クナルト云フコトハ當然ノ事デアルト思ヒマス、其解釋ヲスルニ宜イモノハ、御承知ノ通り伊藤公ノ著ハシタ所ノ憲法義

解ニ於テ、老退ニ關スル事柄ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定メルト云フヤウナ疏註ニアリマスルシ、ソレカラ現行構成法ガ、司法省ニ於テ——即チ明治二十一年ノ頃司法省ニ於テ拵ヘマシタ其案ガ、樞密院ニ廻ツテ、樞密院ニ於テ起草セラレル當時ニ於テ、司法省案トシマシテハ、退官免官ト云フ文字ヲ使ツテ、構成法ノ原案トシテ提案ヲ致シマシタル所、樞密院ニ於テ修正ヲサレタノデゴザイマス、退官免官ト司法省デ提案シマシタノハ、退官ト申シマスノハ、自ラ進ンデ官ヲ退クモノヲ申シマシタ、或ハ其中ニ諭旨免官モゴザイマセウガ、兎ニ角自ラ辭表ヲ提出シテ官ヲ退クモノヲ退官ト稱シ、免官ト稱シマスルノハ、或ハ懲戒處分ニ依ツテ免官サレル者、或ハ刑法ノ宣告ニ依テ免官サレル者トヲ言ヒマシテ、斯ヤウニ行政免官及ビ任意任官トヲ區別シテ、退官免官ノ文字ヲ用キテ提案致シタノデゴザイマス、然ルニ樞密院ニ於テハ、現行法ノ如ク改正セラレマシタ、其改正ノ理由トシテ記載スル所ノ舊記録ニ依ツテ之ヲ申シマスルト、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、帝國憲法五十八條ニ於テ、其職ヲ免ゼラレルコトナシトノ規定アリ、其職ヲ免ゼラレルコトナシトアルハ、判事タルノ官ヲ免ゼラレルコトナキヲ言ヒ、單ニ其奉ズル所ノ職ヲ免ゼラレルコトナシト云フノ精神ニ非ズ、故ニ裁判所構成法ニ於テモ亦憲法ニ準據シ、免官ニ代フルニ免職ノ文字ヲ以テスベシ云々ト云フコトデ、即チ司法省提案ニ於キマシテハ、免官ト云フ文字ヲ用キタノヲ、憲法ノ用語ニ合シテ、其職ヲ免ゼラレルコトナシ、斯ウ云フ風ニ改正ニナツタノデアリマス、之ヲ以テ見テモ、憲法五十八條ノ一項ニ其職ヲ免ゼラレルコトナシト云フコトハ、唯今申上ゲマスル通り、判事タルノ官ヲ免ゼラレルコトナキヲ言フノデアツテ、其職ヲ免ゼラレルコトナシト云フノガ精神デナイ、斯ウ云フ風ニ當時ニ於テハ樞密院ニ於テモ議ヲ決シテ居ル次第デアリマス、之ニ依ツテ今日迄司法省ニ於キマシテハ、憲法五十八條ノ二項ノ其職ヲ免ゼラレルコトナシト云フノハ、取リモ直サズ免官、斯ウ云フコトニ解釋シテ居ルノデ、尙ホソレニ續キマシテ斯ヤウニ退官免官ト云フ文字ニ代フルニ、其職ヲ

免ゼラレルコトナシト改メラレル以上ハ、懲戒ニ依ツテ職ヲ免ゼラレル者ハ、自然其官ヲ失フモノナリトノ明文ヲ懲戒法ニ掲ゲルナラバ、免官ニ代フルニ免職ト云フ文字ヲ以テシテモ、解釋上ニ誤リヲ來スコトハナカラウト云フ迄モ、評議ノ上ニ上ツテ居ルノデアリマス、ソレニ依ツテ現行判事懲戒法ノ第八條デアリマスカ、七條デアリマシタカニ、昨日モ申上ゲル通り、免職處分ヲ受ケレバ免官ニナルンダト云フコトヲ明ニシタ次第デゴザイマス

○横山金太郎君 只今承リマシタ伊藤公ノ憲法五十八條ノ二項ノ解釋「老退ニ於ケル詳説ハ總テ法律ノ掲クル所タリ」トアリマス、成程其義解ノ出マシタ時ハ、即チ憲法義解ノ出タ年ハ明治二十二年ノ四月デゴザイマシテ、構成法ハ其翌年ニ法案ニナツテ發表ハサレマシタガ承ル所ニ依ルト此憲法義解ノ出來タ時分ニハ、構成法ノ草案モ既ニ出來上ツテ居タ、ソレ故此書方ガ「詳説ハ總テ法律ノ掲クル所タリ」構成法ハ既ニ出來テ居タ、此構成法ト相照應シテ憲法義解ヲ書イタモノ、如ク見ヘルノデアリマス、從ツテ此憲法義解ノ老退ト言ヘル言葉ハ、今日行ハレテ居リマスル裁判所構成法七十四條ヲ指スノデアル、斯ウ理解サレルノデアリマス、殊ニ此老退ト云フ文字ハ承ル所ニ依ルト、老退ト云フ文字ヲ以テ物ノ衰ヘタ意味ヲ表明スルコトニナツテ居テ、構成法ノ所謂身體又ハ精神ノ衰弱ト云フ意味ヲ現ハス爲メニ、老、而シテ退ハ退職、斯ウ云フ意味ヲ以テ此憲法義解ガ書カレタモノノ如ク察セラレルノデアリマス、從ツテ老退ト云フ文字アルノ故ヲ以テ、直ニ今回御制定ニ相成リマスル一定ノ年齡ニ達スルト云フ自然ノ事實ヲ以テ、當然裁判官タル貴重ナル職ヲ失フコトニ相當ラナイモノ、如クニ思ハレルノデアリマス、此點、ソレカラ特ニ御尋シタイノハ、一體裁判官ト云フモノノ官ヲ殘シテ置イテ、職ヲ奪ツタ時分ニハ、實際ドウ成リ行クノデアルカト云フコトデアリマス、先ヅ補任ノ狀態カラ考ヘマシテモ、判事ナラ判事ニ任ズト云フコトニナツテ、更ニ何々裁判所ノ判事ニ補スト云フ、此ニ於テ初メテ裁判官ノ職ガ出來ルノデアリマス、從ツテ此轉所ナツト云フコトニ付テモ、自ラ他

ニ規定ガアツテ、轉所ハ要スルニ職務ヲ執ルベキ場所ヲ移轉スルト云フコトニ過ギナイノデアリマス、是等ノ點カラ見マシテモ、職ヲ奪ハレテハ、實際ニ於テ憲法ノ五十七條「司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ」此意味合カラ考ヘテ見マシテモ、裁判官タルノ實ト云フモノガ直チニ失ハレテシマツテ五十八條ノ二項ガ保障致シテ居リマスル意味ガ、根柢カラ破壊サレル感ガアルノデアリマス、此點ハ如何デス

○鈴木政府委員 伊藤公ノ著ハサレマシタル所ノ憲法義解ガ、明治二十二年ノ四月ニ出來タノデアリマシテ、成程其年ニ於キマシテ、裁判所構成法ノ草案ハ既ニ芽ヲ出シツ、アツタノデアリマセウ、併ナガラ今申上ゲマス通り、種々ノ變化、種々ノ修正ヲ經テ、其翌二十三年ニ法律トシテ生レタル次第デゴザイマス、而シテ御質問ニ於キマシテ、憲法義解「老退ニ於ケル詳説ハ總テ法律ノ掲クル所タリ」ト云フ事柄ハ、單ニ構成法ノ七十四條ニ限ルカノ如キ御論議モゴザイマシタガ、自分等ノ考ヘデハ左様ニ思ハヌノデ、既ニ裁判官タルモノハ終身官ニシテ置ク、其終身官タル所ノ官ヲ奪フニ就テハ、刑法ノ宣告若クハ懲戒ノ處分ニ非ラサレバ之ヲ爲サナイ、併ナカラ其職ヲ奪フト云フコトニ就テハ、現ニ構成法七十四條ニ於テ其職ヲ奪ツテ居ルノデアル、既ニ七十四條ニ於テ職ヲ奪フト云フコトヲ規定シテ居ル、其規定ガ憲法五十八條ノ二項ニ違反セズト云フナラバ、今回提案シタル定年法モ亦老退ニ關スル所ノ法規デアアルノデアリマス、構成法ノ七十四條ハ、或ル事實ヲ認定シテ、其事實ニ依ツテ職ヲ退カシメルコトヲ規定シ、今提案シテ居ル所ノ定年法ハ法律ノ擬制ニ依ツテ、或ル年齡ニ達スルナラバ、所謂老退ト看做シテ其職ヲ退カシメルト云フ差ハアリマスケレドモガ、老體ノ爲メニ職ヲ退カシメルト云フ精神ニ至ツテハ同一デアアル、此身體ノ故障ニ依ツテ退カシメルト云フコトハ、老退デハアリマセウガ、精神ノ衰弱ト云フコトハ、若イ者ニモアリマスケレドモガ、總シテ申シマスレバ、所謂老退デアアル、年ヲ取ツテ精神ノ衰弱ヲ來スト云フ意味カラ、七十四條ト云フモノガ生レテ來テ居ルノデアアル、

○鈴木政府委員 伊藤公ノ著ハサレマシタル所ノ憲法義解ガ、明治二十二年ノ四月ニ出來タノデアリマシテ、成程其年ニ於キマシテ、裁判所構成法ノ草案ハ既ニ芽ヲ出シツ、アツタノデアリマセウ、併ナガラ今申上ゲマス通り、種々ノ變化、種々ノ修正ヲ經テ、其翌二十三年ニ法律トシテ生レタル次第デゴザイマス、而シテ御質問ニ於キマシテ、憲法義解「老退ニ於ケル詳説ハ總テ法律ノ掲クル所タリ」ト云フ事柄ハ、單ニ構成法ノ七十四條ニ限ルカノ如キ御論議モゴザイマシタガ、自分等ノ考ヘデハ左様ニ思ハヌノデ、既ニ裁判官タルモノハ終身官ニシテ置ク、其終身官タル所ノ官ヲ奪フニ就テハ、刑法ノ宣告若クハ懲戒ノ處分ニ非ラサレバ之ヲ爲サナイ、併ナカラ其職ヲ奪フト云フコトニ就テハ、現ニ構成法七十四條ニ於テ其職ヲ奪ツテ居ルノデアル、既ニ七十四條ニ於テ職ヲ奪フト云フコトヲ規定シテ居ル、其規定ガ憲法五十八條ノ二項ニ違反セズト云フナラバ、今回提案シタル定年法モ亦老退ニ關スル所ノ法規デアアルノデアリマス、構成法ノ七十四條ハ、或ル事實ヲ認定シテ、其事實ニ依ツテ職ヲ退カシメルコトヲ規定シ、今提案シテ居ル所ノ定年法ハ法律ノ擬制ニ依ツテ、或ル年齡ニ達スルナラバ、所謂老退ト看做シテ其職ヲ退カシメルト云フ差ハアリマスケレドモガ、老體ノ爲メニ職ヲ退カシメルト云フ精神ニ至ツテハ同一デアアル、此身體ノ故障ニ依ツテ退カシメルト云フコトハ、老退デハアリマセウガ、精神ノ衰弱ト云フコトハ、若イ者ニモアリマスケレドモガ、總シテ申シマスレバ、所謂老退デアアル、年ヲ取ツテ精神ノ衰弱ヲ來スト云フ意味カラ、七十四條ト云フモノガ生レテ來テ居ルノデアアル、

テ斯ヤウニ退官免官ト云フ文字ニ代フルニ、其職ヲ免ゼラレルコトナシト改メラレル以上ハ、懲戒ニ依ツテ職ヲ免ゼラレル者ハ、自然其官ヲ失フモノナリトノ明文ヲ懲戒法ニ掲ゲルナラバ、免官ニ代フルニ免職ト云フ文字ヲ以テシテモ、解釋上ニ誤リヲ來スコトハナカラウト云フ迄モ、評議ノ上ニ上ツテ居ルノデアリマス、ソレニ依ツテ現行判事懲戒法ノ第八條デアリマスカ、七條デアリマシタカニ、昨日モ申上ゲル通り、免職處分ヲ受ケレバ免官ニナルンダト云フコトヲ明ニシタ次第デゴザイマス

○鈴木政府委員 伊藤公ノ著ハサレマシタル所ノ憲法義解ガ、明治二十二年ノ四月ニ出來タノデアリマシテ、成程其年ニ於キマシテ、裁判所構成法ノ草案ハ既ニ芽ヲ出シツ、アツタノデアリマセウ、併ナガラ今申上ゲマス通り、種々ノ變化、種々ノ修正ヲ經テ、其翌二十三年ニ法律トシテ生レタル次第デゴザイマス、而シテ御質問ニ於キマシテ、憲法義解「老退ニ於ケル詳説ハ總テ法律ノ掲クル所タリ」ト云フ事柄ハ、單ニ構成法ノ七十四條ニ限ルカノ如キ御論議モゴザイマシタガ、自分等ノ考ヘデハ左様ニ思ハヌノデ、既ニ裁判官タルモノハ終身官ニシテ置ク、其終身官タル所ノ官ヲ奪フニ就テハ、刑法ノ宣告若クハ懲戒ノ處分ニ非ラサレバ之ヲ爲サナイ、併ナカラ其職ヲ奪フト云フコトニ就テハ、現ニ構成法七十四條ニ於テ其職ヲ奪ツテ居ルノデアル、既ニ七十四條ニ於テ職ヲ奪フト云フコトヲ規定シテ居ル、其規定ガ憲法五十八條ノ二項ニ違反セズト云フナラバ、今回提案シタル定年法モ亦老退ニ關スル所ノ法規デアアルノデアリマス、構成法ノ七十四條ハ、或ル事實ヲ認定シテ、其事實ニ依ツテ職ヲ退カシメルコトヲ規定シ、今提案シテ居ル所ノ定年法ハ法律ノ擬制ニ依ツテ、或ル年齡ニ達スルナラバ、所謂老退ト看做シテ其職ヲ退カシメルト云フ差ハアリマスケレドモガ、老體ノ爲メニ職ヲ退カシメルト云フ精神ニ至ツテハ同一デアアル、此身體ノ故障ニ依ツテ退カシメルト云フコトハ、老退デハアリマセウガ、精神ノ衰弱ト云フコトハ、若イ者ニモアリマスケレドモガ、總シテ申シマスレバ、所謂老退デアアル、年ヲ取ツテ精神ノ衰弱ヲ來スト云フ意味カラ、七十四條ト云フモノガ生レテ來テ居ルノデアアル、

果シテ然ラバ我が日本人ノ生理状態カラ考ヘ、又諸般ノ法規カラ之ヲ綜合シテ見マシテ、六十三、六十五ト云フ年齢ハ、我が國人トシテハ、而モ貴重ナル司法權ヲ取扱ハシムル年齢トシテハ、之ヲ最長期トスル、斯ウ云フ見地カラ致シマシテ、此定年制ト云フモガ生レ出タ次第デアリマシテ、決シテ伊藤公ノ疏註ノ老退ニ關スル詳説云々ト云フ事ニ、定年法ハ含ムモノデナイト云フ解釋ハ持ッテ居ラヌノデアリマス

○横山金太郎君 サウスルト憲法五十八條ノ二項ハ、裁判官ト云フ其人ノ官ヲ保障スルト云フ意味デアリマスルカ、裁判官其人ノ職ハ這入ラヌト仰シヤメト云フ意味デアリマスルカ、言葉ヲ縮メテ言フト、私ノ考デハ、憲法五十八條ガ裁判官ノ地位ヲ保障シタ所以ノモノハ、地位ヲ保障シテ、以テ裁判ノ公正、裁判ノ獨立ヲ保タシメタイト云フ意味デアラヌト規定デハナイカト思フノデアリマス、此點ハ如何デス

○鈴木政府委員 五十八條ノ二項ト云フノハ、行政官ノ力ヲ以テ裁判官ノ官職ヲ奪フト云フコトハサセナイ、乃チ刑法ノ宣告力或ハ懲戒處分ノ何レカニ由ラズンバ、其官ヲ奪ハヌト云フコトヲ保障シテ居ルノデアアル、斯ク致シテ以テ裁判官ヲ行政官ノ掣肘ヲ受ケシメナイ、斯ウ云フ事柄ニ外ナラヌト思フノデアリマス、是デ以テカラニ、法律ヲ以テ所謂老退スル者マデモ退ケルコトガ出來ナイト云フコトデハ、勿論憲法ニ於テ保障スルモノデハナカラウト思ヒマス、如何ニ憲法ガ裁判官ノ職ヲ重シ、終身官タラシムルトシテモ、到底身體精神ノ衰弱ニ向ッテ職ニ耐ヘナイト云フヤウナ者ヲ裁判官タラシメ、吾人ノ最モ大切ニスベキ生命、榮譽、自由、財産ノ保護ヲ司ルベキ職ニ當ラシムルト云フヤウナコトハ無イト思フ、如何ニ憲法ガ裁判官ノ地位ヲ保障スレバトテ、俗ニ所謂役ニ立タヌ者ヲシテ裁判ノ職ニ當ラシムルト云フコトハ、憲法ニ於テ想像スベキ事柄デハナカラウト思フ、是デ以テ構成法ノ七十四條ガ生レタモノト見ルノデアリマス、元來佛蘭西等ニ於テ議論ガアリマスガ、裁判官ヲシテ終身官タラシムル、即チ裁判官ハ終身官トシテ任命サレル、謂レナク罷免ハサセ

ナイ、其罷免ヲサセナイト云フ事柄ハ何デアアルカト云ヘバ、裁判官一個人ヲ保護スル爲メニ罷免スベカラズト云フ法規ヲ作ルノデハナイ、罷免スベカラズト云フ事柄ハ行政權等ノ干與干涉ニ依ッテ裁判ノ公正ヲ失フコトガアツテハナラヌカラ、裁判ノ公正ヲ得ルガ爲メニ裁判官タル者ハ無暗ニ罷免ヲシナイ、斯ウ云フ事デ終身官タラシムルト云フコトニナツテ居ルノデアアル、ソレデアリマスルカラシテ、其個人トシテ精神上ノ缺陷ヲ來シ、肉體上ノ缺陷ヲ來シタ者マデモ、之ヲ保護スルト云フコトハ、何レノ憲法ト雖モ、何レノ法律ト雖モ、認ムベキモノハナイト考ヘテ居ルノデアリマス、畢竟此精神ニ依ッテ構成法ノ七十條モ生レタニ外ナラヌノデアリマス

○横山金太郎君 サウスルト、只今ノ御答ノ要領ハ斯様ニ考ヘテ宜イノデスカ、憲法五十八條ノ二項ガ裁判官ノ地位ノ保障致シテ居ルノハ、裁判ノ公正ヲ期待スルガ爲メデアアル、斯様ニ考ヘテ宜シウゴザイマスカ

○鈴木政府委員 宜シウゴザイマス

○横山金太郎君 サウ致シマスレバ、斯ウ云フ場合ニ裁判ノ公正ヲ脅威シナイノデゴザイマスルカ、一例ヲ舉ゲテ御尋ラシタイノデアリマス、若シ茲ニ刑事上ノ一大事件ガアツテ、大審院ガ之ニ就テ構成法ノ五十條ノ二號ノ所定ノ特別裁判權ヲ行使セントシタ、政府官憲ガ其裁判ノ結果ヲ豫測致シマシテ、之ヲ變更スル目的ヲ以テ、議會ノ至大ノ勢力ヲ特ニ、其裁判前、立法ノ形式ヲ以テ判事定年法ヲ制定シ若クハ既ニ存スル所定年法ノ改正ニ依ッテ、定年ヲ若ク低下セシメテ、現在ノ大審院ノ構成ヲ變更シヤウトシタト、斯ウ假定ヲシマス、斯ノ如ク改造ヲセラレタル裁判宣言ニハ、一體抑、何ヲ期待スルノデゴザイマセウカ、其點ヲ……

○鈴木政府委員 御引キニナリマシタル例ソレ自身ニ於キマシテ、私ハ當ヲ得ナイコト、思フ、苟モ或事件ノ裁判ヲ、斯ウシヤウアウシヤウト云フコトノ考ヘル目的ノ爲メニ、大審院ノ判事ガ、六十ノヤツガ揃ッテ居ルカラ、五十五ニ直ス、五十二ニ直スト云フ制限

ノ法ヲ設ケルト云フコトデアッタナラバ、ドウデアアルカ、私ハ左様ナ立法ヲ、如何ナル無謀ナル政府ト雖モ、爲スベキコトデナカラウ、政府ガ斯ノ如キ提案ヲシタナラバ、立法部ガ之ヲ容レルノ理ガナイト考ヘマス、其故ニ御承知ノ通り裁判所ノ組織ト云フモノハ、年ノ初メニ於テ——前年度ノ終リニ於テ、翌年度ノ構成ト云フモノガ定マルノデアアル、一度部ガ定マツタル以上ハ、法律ニ定メタル理由ナキ限りハ、部員ノ變更ヲ許サヌ、サウ云フ次第ニナツテ居ルモノヲ、只今仰セノ如ク、或ル裁判ヲ司法大臣ノ思フヤウニサセヤウト云フ目的ヲ以テ立法ヲシ、其立法ノ手段トシテ或ハ定年法ヲ設ケルトカ、或ハ他ノ法律ヲ以テ己レノ意ノ如ク裁判セシムル目的ノ爲メニ立法ヲスルコトハ、全然アリ得ベキコトデナイ、若シサウ云フコトデ出シテモ、立法部ハ容ル、理ハナイノデアリマス

○横山金太郎君 行政官ガ干渉シテ裁判官ヲ黜陟スル、其行政官モ人デ、只今申シマシタ立法事業ヲ企ツベキ行政官モ人デアリマスカラ、其間ニ區別ヲシテ見ルコトハ出來ヌコトデアリハセヌカ

○鈴木政府委員 行政官ガ干渉シテ司法權ノ獨立ヲ害スルト申シマシタノハ、司法大臣ガ其裁判官ヲ勝手次第ニ黜陟任免ノ權ヲ持ツコトヲ言ウタノデアリマス、決シテ法律ガ介在ヲシテ、法律ノ規定ニ依ッテ判事ノ位置ヲ變ヘテ、サウシテ一生涯在ルベキ所ノ者ヲ、或ル年齢ニ達スルナラバ其職ヲ退カシムル立法ヲ致シタ所ガ、之ヲ行政官ガ干渉スルコトハ、論理ガ許サヌ、成程法律ヲ拵ヘル者ハ人間デアリマセウケレドモ、行政官即チ司法大臣ガ、貴様ハ氣ニ入ラヌカラ罷メルト云フコトデハ、裁判ノ公正ヲ害スル、斯ウ云フコトヲ申シタノデアリマス

○横山金太郎君 只今仰シヤル久ヲ任免黜陟スルニ當ッテ、私ノ心ヲ挾ンデ何事カラスルト云フコトト、私ノ心ヲ挾ンデ立法事業ヲ企ツルト云フ間ニハ、何等ノ相違ハナイト私ハ信ズルノデアリマス、唯ダ任免黜陟ノ際ニハ、自分ノ專斷ニ依ッテ事ガ處セラレルガ、立法事業ト云フトキニハ、議會ガ介在ヲ致シテ居ル、議會ガ眞逆左様ナ状態ノ下ニ其介在トナツテ不當

ナ決議ヲスルヤウナコトハアルマイ、斯ウ見ルカ見
ヌカガ一ツノ、問題デアッテ、唯ダ此議會ガ介在ヲ致
シテ居ルト居ラヌトダケノ差デナイカ

○鈴木政府委員 其差ガ最モ重大デアラウト私ハ思
フ、行政官ガ任意ニ自分ノ思フ儘ニ仕事ヲスルト云
フコトハ、行政官一人ノ考デ出来ルノデアアル、國民ノ
意思ガ現ハレテ居ル所ノ此法律、法律ト云フモノハ
一人ガ拵ヘルモノデアリマセヌ、國民ノ意志ヲ代表
シテ居ル代表機關ニ依ッテ制定サレル法律ハ、即チ國
民ノ意思デアアル、其國民ノ意思ヲ以テ黜陟スルト云
フコトハ、行政官個人ノ一人ノ意思ヲ以テ黜陟スル
關係トハ、天地ノ差ト云フヨリモ、モットヒドイ差ガ
アルト思ヒマス

○横山金太郎君 勿論此議會ト云フモノハ、極メテ
公正ナ態度ヲ執ルベキモノデアアル、國民ノ意思ヲ露
骨ニ代表スルモノデアアルト云フコトハ、私モ信ジテ
居リマス、居リマスガ、サウ致シマスルト、結局只今
私ノ御尋シタ點ハ、立法ノ事業ト云フ場合ニハ、議會
ト云フモノガアルカラ、思フ儘ノ事ガ出来ヌ、然ラザ
ル場合ニハ、思フ儘ノ事ガ出来ルト云フ、即チ議會ノ
介在致シテ居ルト否トニ依ッテ、今回ノ如キ定年法ノ
企ノ如キハ、議會ニ出スコトガ出来ルガ、然ラザレバ
出来ヌ、要スルニ議會ガ介在シテ居ルト否トノ差ニ
依ッテ、斯様な事業ガ企テガ出来ヌト云フケジ
メハ、此處ニ存スルモノト考ヘテ宜シウゴザイマス
カ

○鈴木政府委員 專制時代ノ事ヲ御考ニナルナラバ
イザ知ラズ、今日立憲政體ニナッテ、議會ヲ設ケテ法
律ヲ制定スル今日ニ於テ、左様ナ事ハ如何デゴザイ
マセウカ、夢ニダモ私ハ想像セヌノデアリマス

○横山金太郎君 裁判所構成法ノ七十四條ト、此定
年法トハ同一デアアルト仰シヤルノデアリマスガ、私
ハドウシテモ其間ニ區別ガアルト思フ、七十四條ハ
身體若クハ精神ガ衰弱ヲ致シテ、職務ヲ執ルコトノ
出来ヌ、更ニ言葉ヲ別ニシテ言フト、法律上職務ノ無
能力ナ人ヲ退ケテシマウト云フ意味デアリマス、此
定年法ノ適用ヲ受クベキ人ノ中ニハ、身體ノ上ニモ
精神ノ上ニモ、衰弱ノナイ優良ナ裁判官ガアリハセ

ヌカ、之ガ一點、ソレカラ構成法ノ七十四條ニハ、控訴
院若クハ大審院ノ總會ノ決議ニ掛ケテ、之ヲ黜陟ス
ルコトニナッテ居リマス、裁判所ノ自治權ガ其間ニ認
メラレテアル、之カ即チ構成法ノ二個ノ特色デアッ
テ、此特色ト云フモノハ、今ノ定年法ノ上ニハ更ニ其
影ヲ認ムルコトガ出来ヌ、其點ハ如何デアリマスカ

○鈴木政府委員 横山サンノヤウナ前提ヲ以テスレ
バ、横山サンノヤウナ結論ヲ得ルカ知リマセヌガ、横
山サンハ六十三、六十五ニナッテ人間モ、悉ク立派ナ
人間デアアル、一人トシテ精神身體ノ衰弱ヲ來シテ居
ラヌノデアアル、サウ云フ者ヲ此法律デ以テ拂出スト
云フコトニナレバ、立派ナ人間ヲ裁判官ノ職ニ置カ
シメナイト云フコトニナルト云フコトヲ前提トシテ
ノ御議論ト私ハ承ルノデアリマス、定年法ノ立法ノ趣
旨ハ、日本人ノ身體ガ、生理上ノ關係カラシテ、六十
三、六十五ト云フ年齢ニ達スルナラバ、先ヅ斯様な
重要ナル職務ニ就カシムルト云フ事柄ハ、精神上ニ
缺陷ヲ來シテ、其職ニ堪ヘザルモノト法律ガ認定シ
テ、法律ガ擬制シテ以テ斯様なニスル、斯ウ云フノガ
屢、私ガ申シタ次第デゴザイマス、所ヲ横山君ハ六十
三ニナッテモ、六十五ニナッテモ、立派ナ人間デアアルカ
ラ、ソレヲ拂出スト云フノデアアルカラ、構成法七十四
條ト違フト仰シヤルガ、構成法七十四條ハ、身體精神
ノ衰弱ニ依ッテ其職務ヲ執ルコトガ出来ナイト云フ
事實ノ方面カラ認定ヲシテ、其職ヲ退カシメルノデ
アル、今提案シテ居リマスル定年法ハ、法律ニ依ッテ
一ツノ擬制ヲ設ケマシテ、此六十三、六十五ト云フ年
ニナレバ、斯様な者ハ裁判事務ヲ執ルコトノ出来ナイ
イ状態ニナル年ト法律ガ見マシテ退職セシムルト、
斯ウ云フコトニ依ッテ、其事務ヲ執ルコトノ出来ナイ
ト云フ一ツノ事實ノ認定ヲスル、法律ノ規定ニ依ッ
テ、日本人ハ六十三、六十五ガ、此以上ニ其職ニ就ク
コトガ不相當ナルモノト信ジテ、此法律ノ提案ヲシ
タ次第デアリマスカラ、政府ニ於テハ少シモ變ルコ
トハナイト思ヒマス、而シテ構成法ノ七十四條ニ依ッ
テ、裁判所ニ使フコトヲ認メテ差支ナイト云フコト
デゴザイマスガ、ソレヲ認メテ居ルト云フコトデア
ルナラバ、是ハ總會ノ決議ニ依ルコトデアアルナラバ、

今御審議ヲ願ッテ居リマスル定年法モ亦然リデアリ
マス、大審院又ハ控訴院ノ總會ノ決議ニ依ッテ延長ス
ルト云フコトガ出来テ來ル、第七ニ於テ六十三ト定
メルガ如キ、六十五ト定メルガ如キモ、現規定デ法律
デ認定シテ居ルノト同ジ事デアアル、人ハ多ク六十三、
六十五ニ達シテモ、マダ其人ヲ免職シナイデ、裁判官
タルニ十分デアアルト思フ者ハ、其總會ノ決議ニ依ッテ
之ヲ延長スルコトガ出来ルノデ、サウ云フ立派ナ人
間マデモ悉ク罷メテシマウト云フノデアハナイノデア
リマス

○横山金太郎君 其所ニ疑ガアル、吾ハハ裁判官ハ其
官職ヲ憲法ニ依ッテ保障セラレテアル、其保障サレ
テ居ル人間ヲ退職セシムルト云フ場合ハ、タツタ是
ギリナイ、即チ裁判所構成法ノ七十四條ニ規定致シ
テ居ル身體若クハ精神ノ衰弱ニ依ッテ役ニ立タナク
ナツタ時ハ、裁判官タル職ヲ退カシムル、是ガ爲メニ
司法權ノ獨立ヲ毀損スルノ嫌ハナイガ、而カモ尙且
斯ノ如キ場合ニ於テ、大審院又ハ控訴院ノ決議ト云
フ自治ニ委ネテ、初メテ其効用ヲ完ウセシメル、斯ウ
云フ事ニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ今回ノ定
年法ハ、只今司法官自ラガ仰シヤル如キ、規定ヲ以
テ擬制シテ當然アルベキ事實ヲ假定ヲシテ之ニ向ッ
テ法律的推測ヲシテ、其效力ヲ持タスト云フ意味ニ
ナル、其關係ト云フモノハ、無論此規定ニ依ッテ初メ
テ役ニ立ツ所ノモノデアアルコトハ、ソレハ法律ノ擬
制ヲ以テ其保障サレテ居ルモノヲ奪テシマウノデ
アルト云フ結論ニ達シハシナイカト私ハ思フ、ソレ
デアアルカラ延年ノ規定ト云フモノハ、總會ノ決議ニ
依ッテ任ジテアルト仰シヤル、所ガ延年ト云フ規定ヲ
決議ニ任ズト云フ場合ハ、如何ナル場合デアリマセ
ウカ、大審院長ナラバ六十五歳、其他ノ判事ナラバ六
十三歳ニ至レバ、當然此自然ノ事實ニ、基イテ絕對的
ニ此職ヲ退カシムルト云フ規定ニ依ッテ退イテシマ
ハナケレバナラヌ、之ヲ延ベルカ、延ベヌカト云フ事
ニ就テハ、一旦生命ガ切レタ者ニ向ッテ、ソレヲ恢復
サスカサセヌカト云フコトニ就テ、決議ニ委ネルト
云フ規定ニナッテ居ル、死ンダ後ノ關係ト、死ヌ前ニ
之ヲ殺スカ、殺サナイカト云フコトヲ決議スル場合

ハ、是ハ總會ノ決議ニ依ルコトデアアルナラバ、

トハ、其効力ノ上ニ於テ境界ガアルト思ヒマス

○鈴木政府委員 御議論ハ御議論トシテ伺ヒマスガ、
兎ニ角此法律提案ノ趣旨ハ、日本人ハ六十三、六十五
デ以テ裁判ノ判事タルニ相當シナイト、斯ウ法律ガ定
メテ居ルノデ、一方ハ總會ニ於テ其事實ノ認定ヲサセ
ル、是ハ法律ノ力ノ特ニ不備ナ點ニ對シテ、年齢ヲ定メ
テ退カシムルケレドモ、其人ニ依ッテ差ガアルノデア
カラ、法律ニ於テモ退職セシムルコトガ出來ナイ、其
退職セシムルコトガ出來ナイト云フコトガ、憲法ノ精
神デアルト云フナラバ、構成法ノ七十四條モ亦非ナリ
ト言ハザルヲ得ナイ、七十四條ガ憲法違反ニアラズト
シテ、事實退職セシムルモノナリト云フコトナラバ、一
定ノ年齢ニ退職セシムルト云フコトモ、亦違憲ニアラ
ズト云フコトモ、論理當然ノ歸結デアラウト私ハ思フ
○横山金太郎君 此裁判所構成法七十四條ハ、洵ニ
良ク出來テ居ルノデアリマシテ、實際上職務ヲ執ル
コトガ出來ヌ者ハ、之ニ依ッテ退カシムルコトガ出來
ル規定デアリマシテ、洵ニ結構デアリマスガ、是レア
ルニ拘ラズ、司法省ハ何故ニ此案ヲ御提出ニナッタ
デアリマセウカ、此點ヲ一寸承リタイ

○鈴木政府委員 其間ニ對シテ私ハ横山君ノ言葉ヲ
借リテ御答ヘ申スト、法律上殺スト云フ規定ガシテア
ルノデアアル、ソレカラシテ今度ノ規定ハ延年ノ規定ガ
シテアルノデアアル、殺スト云フ規定ノアルノヲ之ヲ
活カシテ、延バシテヤラウト云フコトヲ、決議ニ依
テスル、法ノ實際上ノ適用ニ於キマシテ、茲ニ難易ノ
アルト云フコトハ、昨日日本議場ニ於テ私ノ申シマシ
タ通りデアリマス、ソレハ横山君ハ御承知ノ事ト思
ヒマス、固ヨリ裁判官ハ其職ヲ退クコトハナイノデ
アリマスガ、精神上ノ缺陷ニ依ッテ其職務ニ堪ヘナイ
場合ハ、之ヲ退カシムルト云フコトハ、吾々ハ個人ノ
談笑ノ間ニ於テハ兎モ角モ、隨分彼ノ人ハ弱クヤウ
ダカラ、モウ退イテモ宜カラウト云フ話ハシテ居リ
マシテモ、之ヲ上下ヲ著テ、總會ノ決議ニ於テ、愈之
ヲ決議スルト云フ場合ニハ、人ハ皆躊躇スル、其人間
ガ役ニ立タナイ人デモ、之ニ止メヲ刺スト云フコト
ノ決議ヲスルコトハ、是ハ洵ニ困難ナ事デアラウト
思フ、斯様ナ事ニ就キマシテハ、或意味カラ申シマス

レバ、是ハ一ツノ人間ノ美德デアルカモ知レヌガ、左
様ナ事デ七十四條デ、直チニ退職セシムルノハ、實ニ
困難デアルト云フコトハ、御承知ノ事ト思フ、デ私ハ
御尋申シマスガ、既ニ七十四條ニ於テ直チニ身體衰
弱ヲ認定シテ退職サセルコトガ出來ルト云フヤウナ
事ニナッテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ適用スルナラ
バ何モ定年法ヲ設ケル必要ハナイデハナイカト云フ
御議論ガ、昨日モアッタヤウニ考ヘマスガ、即チ七十
四條ノアル外ニ、此法律ノ規定ヲ以テ、此六十三、六
十五デ退職セシムルト云フコトノ困難ナルコトハ、
今申シマスル通りデ、精神上ノ缺陷ヲ認定シテ、其人
ヲシテ、所謂老耄タル事ヲ定メルコトハ困難デア
ル中、以テ此適用ヲスルコトハ、事實ニ於テ出來ナイ、
決シテ出來ナイ事柄ガ、裁判官ノ私カラ出テ來ルコ
トデナイト云フ點ニ付テ御諒解ヲ得タナラバ、七十
四條ニアル外ニ定年法ノ必要アルコトヲ御感得下サ
ルコト、承知スルノデアリマス

○横山金太郎君 サウ致シマス、構成法七十四條
ガ若シ適用ガ出來タナラバ、定年法ヨリモヨリ以上
ニ司法部内ノ淘汰ノ出來ルト云フ、此事實ハ御認め
ニナリマスカ

○鈴木政府委員 七十四條ノ適用トシテ甚ダ至難デ
アルト云フコトハ、以上申シタ通りデアリマス、其至
難ガ除去セラレザル限リニ於テハ、ドウシテモ定年
法ハ必要デアアル、其至難ヲ除去スル方法ハ私ハ無イ
ト思フ

○鈴木政府委員 昨日横山君ハ、總會ノ決議ニ提案
ヲシテ、其決議ガ思フ通りニナラヌト云フコトヲ豫
測シテ、遂ニ其申出ヲ撤回シタ事實アルガ如ク、御質
問デゴザイマシタガ、サウ云フ事實ハ一ツモアリマ
セヌ

○横山金太郎君 事實ノ無イノニ食ハズ嫌ヒヲ爲サ
ルト云フコトハ、一體ドウ云フ譯デアリマス、又困難
ト云フコトニ付テハ、斯ノ如キ人情ノ機微ヲ察知ス
ルコトハ、極メテ適用ガ困難デアルト云フコトヲ、司
法大臣ガ御提案ニナラナイノデアリマスカ、又司法
大臣ハ御提案ニナッタケレドモ裁判所ガドウモオカ
シイカラト云フテ、御撤回ニナッタト云フヤウナ御事
例ハ無イノデアリマスカ、無イト仰シヤルナラバ、私
ハ茲ニ證據ヲ擧ゲマス、貴族院ニ於テ大木司法大臣
ハ、正ニ此點ニ於テ御明言ニナッテ居ルコトガアル
デス

○鈴木政府委員 貴族院ニ於テ司法大臣ガ明言サレ
タノハ、提案シタ案ヲ撤回シタト云フコトハ言ハレ
テ居ラヌノデアリマス、左様ナ困難ナ事情ガアルカ
ラ、提案ヲシヤウト考ヘタヤウナコトモアルケレド
モガ、此事實ノ認定ト云フモノハ、色々ナ狀況ニ依ッテ
出來ナイカモ知レナイ、ソレデアアルカラ提案シナカ
タト云フヤウナ趣意デハ述ベラレタト思ヒマスガ、
提案シタモノヲ明ラ様ニ撤回シタト云フ事實ハナイ
ノデアリマスカラ、司法大臣ノ言ハレタコトハ、其出
シタ案ヲ撤回シタ趣意デナイト云フコトヲ御諒解ヲ
願ヒタイノデス、ソレカラ狂人ニナッタトカ盲人ニ
ナッタトカ、跛足ニナッタトカ、有形的ニ誰ガ見テモ、
彼ガ見テモ是ハ精神衰弱デアアル、身體ノ缺陷デア
ルト云フコトガ明白デアラナラバ、是ハ今日マデ七十
四條ヲ適用シナイデモ、自ら罷メル例ハアリマシタ、
狂人ニナッテ、所謂精神ノ狂態状態ノ發作ガ止ンデ
居ル間ニ、辭表ヲ出シテ罷メタノハアルケレドモ、狂
人ニナッテ、マルデ意識ヲ缺イテ仕舞ッタト云フヤウ
ナ顯著ナルコトデアレバ、是ハ七十四條ノ適用ハ容易
イコトデアリマセウ、併ナガラ此裁判事務ト云フモ
ノハ能ク、横山君モ御承知ノ通り、寔ニ些細ノ點
マデモ頭腦ヲ使ハナケレバナラヌモノデアアル、其些

細ノ點ニモ頭腦ヲ使フト云フヤウナ細心ノ注意ヲ拂ヒ、細大漏サズ隅カラ隅マデ行キ届クダケノ能力ヲ要スルモノデアアル、其能力ノ缺ケテ居ルヤ否ヤト云フコトノ尺度ヲ設ケテ認定スルコトハ、寔ニ至難デアアル、其故ニ七十四條ノ精神身體ノ——身體ハ倍措キマシテ、精神ノ衰弱ニ依ッテ退職決議ヲスルト云フ事柄ガ其尺度ト云フモノガ誤ッテ居ラナケレバ宜シイノデアリマスガ、其尺度ガ人々個々見ル所ニ依ッテ違フ、司法大臣ト雖モ、或ハ司法大臣ノ見ル目デハ、此位ノ事デアアルナラバ、ドウモ判決モ書ケマイト云フヤウナコトモ、他ノ人ノ見ル目ヲ以テ見レバ、ナニマダ書ケナイコトモナイ、斯ウ云フヤウニナルカモ知レナイ、ソレヲ誰ガ見テモ彼ガ見テモ、萬人ガ認メテ以テ狂人ダト云フヤウナ動作ガ現ハレテ來レバ、是ハ七十四條ヲ適用スルハ易々タルモノデアアル、所デ裁判事務ト云フモノハ、寔ニ小サイ事迄モ頭ヲ使フ、其頭ガアルカナイカト云フ判斷ト云フモノハ、寔ニ困難デアアル、是レ即チ私ノ言フ七十四條ノ至難ナ所

ガ、ドウデスカ
○鈴木政府委員 成程私ガ若朽ト云フ言葉ヲ用キテ答ヘマシタカ知レマセヌガ、若朽ト云フコトハ定年法ニ對シテ言ウタノデ、定年法ノ六十三、六十五ト云フコトヲ以テ退齡トスルナラバ、六十三ニ達セザル者ハ若朽デアアル、必ズシモ三十カ四十ノ區裁判所、地方裁判所ノ判事ヲ言フノデハナイ、即チ七十四條ヲ全廢シテ、此定年法ダケニスルト云フト、六十三ニ達セザル者ガ、精神身體ノ衰弱ガアツテモ、罷メサセルコトガ出來ナイト云フコトニナル、六十三ニ達セナイ者デモ、身體ノ缺陷ヲ來ス者モアリマセウ、又精神衰弱ヲ來ス者モアリマセウ、ソレデアリマスカラ若イ判事ハ殺シ易イ、年寄ノ判事ハ殺シ難イ、サウ云フ意味デハナイ、ソレ故ニ七十四條ガアツテモ、此定年法ガ必要トスル、定年法一ツデハ行カナイ、矢張定年法ノ外ニモ七十四條ハ必要デアアル、其必要ノアルノハ六十三ニ達セザル者デモ、身體精神ノ缺陷ヲ來シタ者ハ、矢張退職セシメナケレバナラヌト云フコトガアル、年寄ニ對シテ——六十以上ノ者ニ對シテ、事實認定ハ困難デアアルガ、六十以下ノ者ニ對シテノ事實認定ハ容易イデアルト云フ意味デハ、毛頭ナイノデゴザイマス

省ノ見ル目ニ於テハ、總會ニ懸ケテ老退決議ヲナサシムル程度ニ達シタリト思フ者ガ、既往四五年間ハ無カッタノデアリマス、左様御了承ヲ願ヒタイ
○横山金太郎君 實際左様ナ不可能ナ事實ガ無カッタトスレバ、定年法ヲ別ニ御企テニナラヌトモ、七十四條ノ適用ヲ殘シタラ宜イデハアリマセヌカ、ソレカラモウ一ツ御尋シタイノハ、定年法ガ議會ヲ通過シテ實施ノ曉ニ於テハ、ドウ位ノ人數ガ此定年法ノ適用ヲ受ケルコトニナツテ居ルカト云フ事ト、ソレカラ定年法ノ適用ヲ受ケル人ノ名前ハ勿論申サレマスマイガ、大凡ドウ云フ階級ニ在ル人デゴザイマスカ、之ヲ伺ヒタイ
○鈴木政府委員 先以テ七十四條ヲ片端カラ適用シテ見テ、ソレデ行ケナケレバ定年法ヲ出シタラ宜カラウト云フヤウナ御議論ニ歸著スルヤウデアリマスカ、ソレハ御議論ハ御議論デゴザイマスルガ、先程來申ス通り、既往四五年間ハ、精神衰弱ノ事實ヲ以テ退職決議ノ提案ヲシタコトハゴザイマセヌガ、日本人ノ年齡トシテ、六十三ニ達スレバ即チ頽齡デアアル、頽齡デアアルカラシテ、事實ノ認定ト云フヨリハ、法律ニ於テ職務ニ相當スル年齡デナイ——其以上ノ者ハ職務ニ相當スル年齡デナイト云フコトヲ定メタ方ガ宜シイト云フ見地カラシテ、此定年制ヲ設ケタノデアリマスカラ、自分等ノ考トシテハ、七十四條ト定年法ハ並ビ存シテ、必要デアルト云フ見地デアリマスルノデ、先以テ七十四條ヲ試ミル必要ハ無イノデアリマス、ソレカラ第二問ノ本年ニ於テ、數ヘ年六十四歳ニ達スル者ガ二十五人ゴザイマス、ソレデ級別ハ奏任六級俸ニ於テ四名、五級俸ニ於テ四名、四級俸ニ於テ五名、三級俸ニ於テ一名、二級俸ニ於テ一名、一級俸ニ於テ一名、勅任ニ於キマシテ四級俸以上ガ九名ト雖モ、二十日以内——是ハ略ハ推測ハ出來マスルガ、二十日ノ期限ヲ與ヘタ御趣意ヲ伺ヒタイ

○横山金太郎君 サウ致シマス、司法省ハドウモ實際ニ發案ヲシタ所デ、裁判官ガ七十四條ノ適用ヲシテ、總會ノ決議ヲ仕兼ネルカラト云フノデ、自ラ氣兼ヲシテ司法省ハ是マデ發案爲サラナカッタ斯ウ云フ趣意ニ考ヘテ宜シウゴザイマス、ソレカラ又其發案ヲ爲サラナカッタノハ今日マデ幾年間位續イテ居ルノデゴザイマス、ソレカラモウ一ツハ貴族院ニ於テ御答ノ次第ニ依リマス、左様ニ權威ノナイ、適用ノ乏シイ法律ナラ、寧ロ御廢止ニナッタラドウカト云フ問ニ對シテ、ソレハ適用ガアル、身體ノ衰弱ト云フガ如キモノ、是ハ確ニ外形上カラ認メルコトガ出來ル、モウ一ツハ若朽ニ適用スルコトガ出來ルヤウニ言ハレテ居ル、若朽ト云フコトハ、取りモ直サズ年若クシテ其職ニ堪ヘナイト云フコトニナルノデアリマス、果シテ斯様ナ事實ガ裁判所ノ間ニアルトスルナラバ、情實ハ無イト仰シヤルケレドモ、若イ裁判官ナラババラ／＼ヤッテ仕舞フ、併ナガラ地位ノ上ノ古イ裁判官ニ對シテハ、ソレヲ適用シナイト云フコトハ、今ノ司法裁判所ト致シテ宜シクナイ扱イト考ヘマス

○横山金太郎君 只今御尋シタ中デ、モウ一ツ御答ガ落チテ居リマス、此七十四條ヲ適用ニナラナカッタト云フノハ、司法省ガトテモ出シテモ事實上不可能デアアルカラ、ト云フコトデ御提案ニナラナカッタ爲メニ、自ラ七十四條ト云フモノガ徒法死文ニ屬シテ居ルノデアアルヤ否ヤト云フ事ガ一ツ、ソレカラ今ノ御答ニ依レバ、裁判所ノ總會ニ懸ケタケレドモ、判事ガ氣兼ネヲシテ、ツイドウモ進行ガ覺束ナカッタカラ、撤回シタコトハナイト云フヤウナコトヲ仰シヤッタガ、サウスルト司法省自身ガ氣兼ネヲシテ、御提案ニナラナカッタモノト看做シテ宜イカ、又司法省自身ガ氣兼ヲシテ御提案ニナラナカッタト云フ度數ハ、ドウ位デアリマスカ
○鈴木政府委員 司法省ガ氣兼ヲシテ提案ヲシナカッタト云フ事實ハアリマセヌ、隨テ氣兼ヲシタ爲メニ何年間之ヲ提案シナカッタト云フ事實モ無イ、司法

○鈴木政府委員 本法施行ノ日ニ於テ、六十三歳以上ニ達スル者ガ若干アラウト思ヒマス、サウ致シマスルト、ボッキリ切レテシマヒマスカラ、所謂延年決議ヲサセル暇ガ無イコトニナリマスノデ、二十日ヲ

以テ延年決議ノ猶豫期間ニシタノデス

○宮古啓三郎君 只今ノ六十四歳ニ達スル人ヲ、大審院ト控訴院ト地方裁判所ト區裁判所トニ分ケルト、各、何人アルカ、參考ノ爲ニ承リタイ

○津原武君 現在ノ司法官ノ年齢別ヲ裁判所別、官等別等ニ區別ヲシテ、其統計ヲ頂戴シタイ

○鈴木政府委員 只今一寸御即答ハ出来マセヌカラ、後刻マデニ調べマシテ御答申上ゲマス

○塚原嘉藤君 尙ホ出来マスルナラバ、辯護士ノ方モ判ツテ居ルナラバ御知セラ願ヒタイ

○鈴木政府委員 年齢デスカ

○塚原嘉藤君 サウデス

○南鼎三君 司法官ノ恩給ヲ受ケル平均年齢モ知リタイト思ヒマス

○鈴木政府委員 只今南君ノ御要求ハ、一寸判リマセヌ、恩給ヲ受ケル者ハ何百人ト云フ受恩給者ニ一當タレバ、判リマスガ、ドウモ三日ヤ四日ノ間ニハ出来マセヌ、併ナガラ斯ウ云フコトダケハ、御話ガ出来マス、曾テ斯ウ云フ問題ニ就テ吾ガ其議ニ與ツテ評議シタ會議ガアリマスガ、其時ニ現ハレタル説ニ依レバ、今日文武官ヲ通ジテ受恩給ノ平均年齢ハ十八歳ト云フコトニ聞イテ居ルノデアリマス、乃チ御承知ノ通り恩給ヲ受ケルノハ、在職十五年デ恩給ヲ受ケル、三十年勤続スル者モアルシ、三十五年勤続スル者モアリマスガ、ソレヲ通算シテ十八歳ガ平均ニナツテ居ルサウデス

○委員長(戸水寛人君) 如何デス、マダ通告者ガ三人バカリアリマスカラ、此邊ニ止メテ置イテ、一時カラ引續イテヤルコトニシテハ如何デス

○高柳覺太郎君 私モ通告シテ置キマス

○塚原嘉藤君 私モ質問ヲ通告シテ置キマス

○委員長(戸水寛人君) ソレデハ明日正十時ニヤリマス、今日ハ是デヤメテ置キマス、ソレデドウカ必ズ十時ニ御出デ下サルコトニ願ヒタイ

午後零時二十一分散會

大正十年四月十三日印刷

大正十年四月十四日發行

議院事務局

印刷者 印刷局